

名称	射塚
建築年代	明治初年から明治 38 年以前か
構造	煉瓦積み、モルタル塗装
用途	史跡指定地では、明治初年から銃砲弾の発射試験が行われていたと推定される。射塚は、火薬の性能試験のために発射した銃砲弾を受け止める目的の機能を果たしていた。
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 射塚としては、明治初期から使用されたことが明らかであるものの、煉瓦積みの構造物が整備された時期は不明である。また、明治 38 年に稲付に射場が構築され、機能が移転したことから、これ以前の整備と推定される。 現在は入口がコンクリートブロックで閉塞されているが、奥行 10m 程度の部屋状となっており、内部には跳弾を防止するため砂が充填されていたと推定される。 現存する射塚の規模からすると、大砲用砲弾を受け止めることが難しいことから、小口径の射撃を念頭に置いた構造と考えられる。 現存する射塚は露天式発射場用として利用されたが、並行して現存する弾道管の射塚が別に存在した。弾道管は隠蔽式発射場用の射塚は、昭和 9~18 年図に掲載されていることから、この時期に整備され昭和 46 年の加賀公園建設時に取り壊されたと推定される。



射場から望む露天式射塚



露天式射塚



弾道管と隠蔽式射塚



隠蔽式射塚